

株式情報/会社情報

(2018年10月31日現在)

■ 株式の状況

発行可能株式総数	200,000,000 株
発行済株式の総数	133,184,612 株
株主数	10,894 名

■ 株式分布状況



■ 会社概要

会 社 名	クミアイ化学工業株式会社
設立年月日	1949年6月20日
資 本 金	4,534百万円
事 業 内 容	殺虫剤・殺菌剤・除草剤などの農薬の製造・販売 有機中間体・アミン硬化剤等の化成品の製造・販売
従 業 員 数	1,672名(連結)(2018年10月31日現在)
本社所在地	〒110-8782 東京都台東区池之端一丁目4番26号

■ 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
全国農業協同組合連合会	26,527	21.17
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	8,212	6.55
CGML PB CLIENT ACCOUNT/ COLLATERAL	7,570	6.04
農林中央金庫	6,117	4.88
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	4,787	3.82
スルガ銀行株式会社	4,397	3.51
共栄火災海上保険株式会社	4,381	3.49
静岡県経済農業協同組合連合会	2,770	2.21
第一生命保険株式会社	2,080	1.66
日本曹達株式会社	1,928	1.53

(注)1. 持株数は千株未満を切捨てて表示しております。

2. 当社は自己株式7,921,665株を保有しておりますが上記の大株主から除いております。

3. 持株比率は、自己株式(7,921,665株)を控除して計算しております。

株式メモ

事業年度：11月1日から翌年10月31日まで
定期株主総会：毎年1月中
株主名簿管理人：東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座管理機関：三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先(郵送先)：〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
基準日：定期株主総会については10月31日、
その他必要があるときは、
あらかじめ公告する一定の日
公告の方法：電子公告により行う
公告掲載URL
<http://www.kumiai-chem.co.jp/>
(但し、電子公告によることができない事故、
その他やむを得ない事由が生じたときには、
日本経済新聞に公告いたします。)

株式に関するお手続き等について

当社株式のお手続き窓口とお問合せ先は次のとおりです。

お手続き窓口及びお問合せ先

- まだ受け取っておられない配当金の受領に関するお手続き及びそのご照会
- 特別口座に関する振替請求、単元未満株式の買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続き
- 株主名簿にご登録の配当金受取方法に関するご照会
- 株主様宛郵便物等の発送と返戻に関するご照会
- 特別口座に関する各お手続き及びそのご照会

お手続き窓口 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店の窓口

お問合せ先 三菱UFJ信託銀行株式会社

各種お問合せ **0120-232-711**

インターネットによるダウンロード <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

- お取引の証券会社等に開設されている振替口座に預託されている当社株式に関する単元未満株式買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続き
- 上記の各お手続きに関するご照会

お取引口座を開設されている証券会社等にてお手続き又は
お問合せをお願いします。

IR情報を当社ホームページでご覧になれます。

ホームページアドレスは次のとおりです。

<http://www.kumiai-chem.co.jp/>



クミアイ化学工業株式会社

本社 東京都台東区池之端一丁目4番26号
※この株主通信に関するお問合せは下記までお願いいたします。

広報・IR課 **03-3822-5036**



環境に配慮した
「植物油インキ」を
使用しています。

クミカ letter vol.02

第70期 株主通信 2017年11月1日→2018年10月31日



踏み出せ次のステージへ 新たに拓くクミカの未来

ダイナミックな成長のステージへ

ファインケミカル分野をクミカ第二の柱に。

安定成長のステージへ

市場拡大、新製品投入、進化を続ける農薬事業。

CSRを攻めのステージへ

クミアイ化学工業初のCSR報告書を作成。

クミアイ化学工業株式会社

証券コード 4996



新たに拓くクミカの未来

第71期は、経営統合後の新生クミアイ化学工業として2回目の期であり、また創立70周年を迎える記念すべき年でもあります。5月には経営統合後の全従業員が一堂に会し、全社を挙げて式典を行う予定です。これまでの当社の歴史を振り返り、株主の皆さま並びにステークホルダー各位への感謝と“輝く未来”へ向けて決意を新たにする機会にしてまいります。

当社の“輝く未来”、それは当社のビジョンである「農業生産の課題を解決する研究開発型企業として“将来に亘って持続的に発展できる強い永続企業”」の実現です。

そのためのロードマップが中期経営計画となります。この計画の最終年度となる2020年の経営数値目標は、連結売上高1,160億円、営業利益90億円の達成です。初年度の第70期は中期経営計画どおりに推移してまいりましたが、肝となるのは、この第71期だと考えています。全社を挙げて、それぞれの責務に全力で取り組み、達成を目指してまいります。

第71期の最優先課題は「原価の削減、販管費を含む全てのコストの低減」です。スピード感をもって経営統合によるシナジー効果を確実に発揮させ利益を生み出してまいります。「踏み出せ次のステージへ 新たに拓くクミカの未来」。この標語のもと、すべてにおいてスピードを重視して利益を生み出しながら、最重要経営資源である「人材」の育成・強化、働き甲斐の増大に取り組んでまいります。

代表取締役社長
小池好智



踏み出せ次のステージへ

CSRを攻めのステージへ

TOPICS / 03 クミアイ化学工業初のCSR報告書を作成。

2019年1月に、クミアイ化学工業初となるCSR活動をまとめた報告書を発行いたします。これまで当社では、農薬事業や化成品事業を通して、企業理念である「いのちと自然を守り育てる」ことをメインテーマとしたさまざまなCSR活動を行ってまいりました。これからは、活動の意図や内容をステークホルダーの皆さんに広く詳しくお知らせすることで、社内ではCSRに関する理解を深め、社外へは有益な情報をご提供してクミアイ化学工業の姿勢を示したいと考えております。

この報告書の制作を機に、ISO26000を中心としたコンプライアンスやガバナンス、リスクマネジメントといった「守りのCSR」はもとより、農家の省力化に貢献する豆つぶ[®]剤の開発など、事業を通じて社会に新たな価値を提供していく「攻めのCSR」を強化してまいります。今後の活動については2015年9月に国連で採択された「持続

可能な開発目標(SDGs)」と事業の関連性を考慮しながら、当社のマテリアリティ(重点課題)を特定することがCSR活動における次のステップだと認識しています。

社会貢献という企業の責任を果たすことが、企業価値の向上、さらなる成長へつながってゆく。そのような好循環を目指して、これまで以上にCSR活動に積極的に取り組んでまいります。

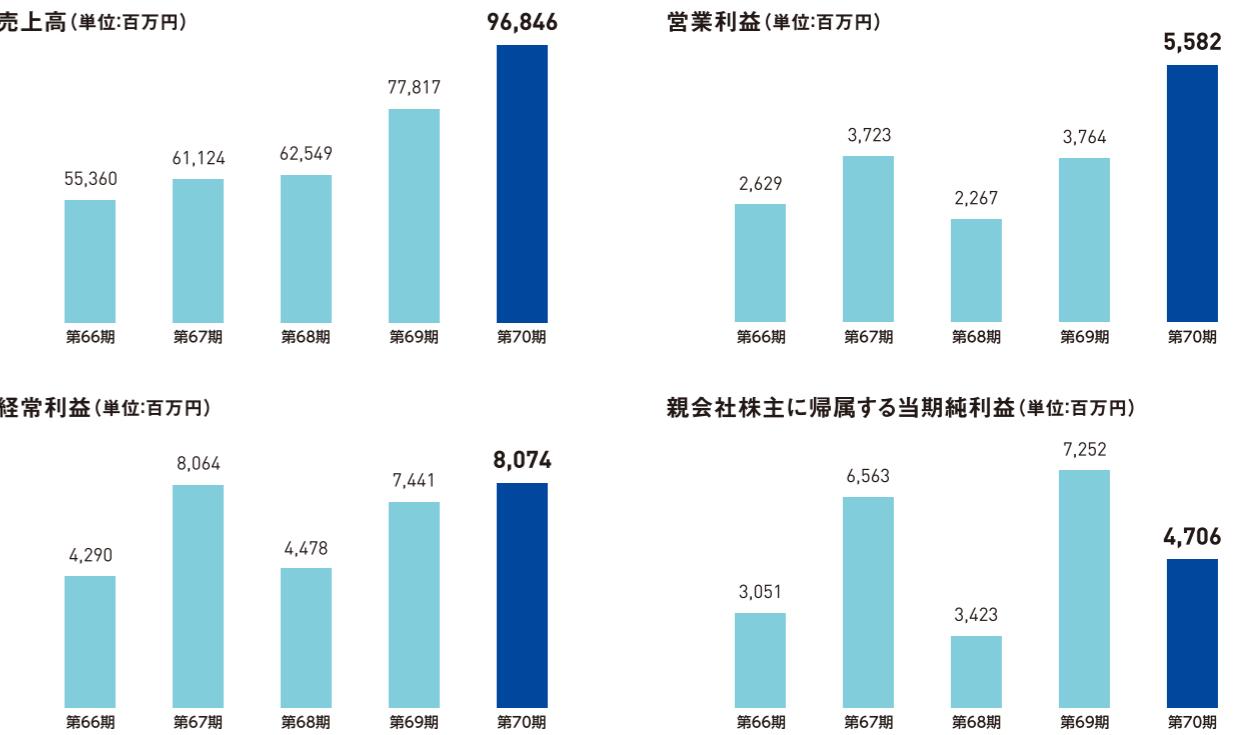
株主の皆さんにおかれましては、ぜひこの報告書をご一読いただき、ご意見・ご感想を賜れますと幸いです。



1月末より当社WEBサイトに掲載いたします

当期経営成績

業績予想売上高「950億円」を大きく越え、「968億円」に。8期連続の売上増。



ダイナミックな成長のステージへ

ファインケミカル分野をクミカ



経営統合によるスピーディな成長

当社は、2017年5月の経営統合により、化成品に強みを持つ旧イハラケミカル工業株式会社の事業を継承し、化成品事業を農薬事業に次ぐ第二の柱として位置づけました。これまでのグループは、旧イハラケミカル工業を中心とした緩やかなアライアンスでしたが、今後は同じ方向性を目指す強固なグループ事業体としてダイナミックな成長を目指します。

当社の化成品事業は国内唯一の塩素化技術を用いたクロロトルエン・クロロキシレン誘導体事業を行う「イハラニッケイ化学工業」、国内トップシェアを誇る電子材料向け・高耐熱樹脂向けビスマレイミド類事業を行う「ケイ・

アイ化成」、発泡スチロールのさまざまな特性を活かした製品事業を行う「イハラ建工工業」、製紙用化学品を取り扱う産業用薬品事業の「理研グリーン」、そしてあらゆる産業分野への受託合成を強みとする「クミアイ化学工業」等を擁します。それぞれの化成品事業で培ってきた強みを活かしたシナジーの確実な発現に向け、事業基盤を強化するとともに、有機合成技術とグローバル調達拠点を駆使し、グループ内外のアライアンス有効活用により、顧客価値にフィットする品質・コスト最適化の実現と新規技術の開発を推進し、スピーディかつ持続的な成長を図ってまいります。

TOPICS / 01

第二の柱に。

イハラニッケイケミカルタイランド工場、稼動開始

クミアイ化学グループの「イハラニッケイ化学工業」が当社との共同出資によりタイ王国に設立した「イハラニッケイケミカルタイランド」の工場が、2018年9月に稼働を開始いたしました。

「イハラニッケイ化学工業」は、日本国内でも数少ないファインケミカル原料の塩素化合物を手がけるメーカーです。トルエンとキシレンの塩素化誘導体を主体とし、静岡市の本社工場のみで生産を行ってまいりました。キシレンのメタ系アラミド繊維原料のイソフタル酸クロリド(IPC)は年間2000トン、パラ系アラミド繊維原料テレフタル酸クロリド(TPC)は年間5000トンの生産量となっております。アラミド繊維は、メタ系が耐熱性に優れ、パラ系には高強度・高弾性という特徴があるため、防護服から産業資材まで幅広く使用され、今後も大きな成長が予想される高機能繊維です。タイへの進出を決断した大きな理由としては、近年の需要の伸びに対して国内工場の生産能力だけでは今後の機会損失につながりかねないことや、最大ユーザーが生産をタイにシフトしたこと、



圧倒的に海外の需要が大きい原料であるため、東日本大震災以降は海外ユーザーから單一生産拠点への不安の声が高まっていたことが挙げられます。「イハラニッケイケミカルタイランド」では、現在メタ系アラミド繊維原料を生産しており、今後はパラ系アラミド繊維原料の生産も予定しています。海外で既存品、国内工場では少量高付加価値製品と、生産の住み分けを図りながら、技術優位性の確立に注力してまいります。

また、「イハラニッケイ化学工業」では、短期テーマとして、クリーンな生産を可能とするマイクロリアクターを使つた開発品の実機生産準備を進め、その他LEDの活用、マイクロバブル、膜分離等を技術開発の柱とします。長期的には研究開発型企業として技術起点でのテーマ創出を中心とし、研究者による粘り強い研究を支える環境づくりやグループ共同研究も積極的に提案してまいります。

クミアイ化学グループの化成品事業体としては、この塩素化事業強化をはじめとした、競争優位性の確立と新事業の育成を進めることで、グループの総合力を強化してまいります。

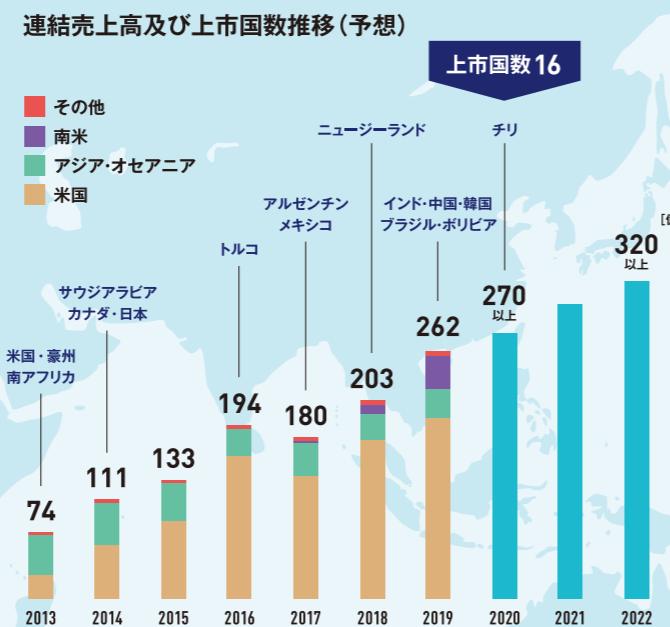
市場拡大、新製品投入、進化を続ける農薬事業。

成長ドライバーのアクシープ剤、 2022年、320億円以上を目指して

農薬事業における当社の成長ドライバーであるアクシープ剤は主に、大豆、トウモロコシ、小麦向けの畑作用除草剤として、アメリカをはじめ世界各国で使用されています。幅広い雑草に効果を示すだけでなく、現在問題となっている既存の薬剤へ抵抗性を持った雑草にも効果があるため、今後さらなる成長が期待できます。

2018年は、抵抗性雑草の影響が大きい北米で新規混合剤を上市し、併せてトウモロコシ向けの剤を販売開始したことによってシェアの拡大が進みました。また、北米で深刻な問題となっている抵抗性雑草はアルゼンチンでも発生しており、2017年には問題が顕在化しておりました。特に問題視されるのが、アオゲイトウと呼ばれる雑草であり、3m以上に育つ上に小さな種をたくさんつけるため、放っておくと畑全体を覆うほどの大発生となります。この雑草が既存の薬剤への抵抗性を獲得することで防除が難しくなり農家を悩ませていましたが、アクシープ剤はこの抵抗性のアオゲイトウに対し、他剤にはない優れた効果と残効性を有しています。そのため問題拡大の2017年というタイミングで、アルゼンチンでの上市を行ったアクシープは待望の剤として迎え入れられ、好調な売れ行きを見せています。これらの結果、2018年には売上高203億円となりました。2019年にはインド、ブラジル、中国等への上市も控えており、上市国数は15となる予定です。グローバル規模での市場拡大により、2020年の270億円を通過点とし、2022年には320億円以上の売上高という安定成長のステージを目指します。アクシープ剤のさらなるグローバル展開によって、農家の方々の

負担軽減による世界の農業生産性および農業生産物の品質向上に貢献することで、地球規模の食料問題解決に取り組んでまいります。



アクシープ剤圃場試験

アクシープ剤による土壤処理散布をした部分だけ、雑草の発生が抑えられています。



新開発のエフィーダ剤、国内で販売開始。欧州で共同開発

2019年より、新開発の有効成分であるエフィーダ剤を含む国内向け水稻一発処理除草剤の販売を開始いたします。

2019年より新発売「エンペラー®」



エフィーダ剤は幅広い草種に対し高い効果を示す上に、水稻に対して安全性が高いため、食用米はもちろん、今後需要の増加が予想される多収米、飼料米にも使用できます。全国的に展開するべくエフィーダ剤を含有するさまざまな混合剤の開発を進めておりますが、2018年に登録を取得した2剤につきましては、2019年より本格販売となります。

2018年7月には欧州の農薬販売会社Certis Europeと開発販売契約書を締結いたしました。エフィーダ剤は水稻だけでなくムギ類にも極めて高い安全性を示すことから、欧州のムギ類と水稻を対象としてエフィーダ剤を



共同開発いたします。広葉雑草やカヤツリグサ科に対して高い除草効果があるほか、現在問題となっている抵抗性雑草を含む難防除広葉雑草の防除に有効な剤として期待しております。

国内だけでなく海外へ積極的な展開を図ることで新規剤の可能性をひろげ、グローバル規模での安全で安心な食料の生産に貢献してまいります。

近年、当社では次々と自社開発新規剤の登録取得、販売を開始し、2020年には水稻用殺菌剤ジクロベンチアゾクスの登録取得も予定しております。2010年から数えますと10年で6原体という世界的にも高い新剤開発力を誇っております。経営統合により一体化した研究開発体制によって、効率化によるスピードアップを図るとともに、研究者の自由な発想によるイノベーションを促進することで、オリジナルな新製品の開発に取り組んでまいります。

クミカ開発新規剤 バイオライン

